

宜 基 渉 第 64 号
平成 30 年 2 月 14 日

外務省沖縄担当大使
川田 司 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

MV-22 オスプレイの部品落下について（抗議・要請）

2月9日に、沖縄防衛局からうるま市伊計島の海岸に米軍普天間飛行場に所属するMV-22 オスプレイの、右側エンジンの空気取り入れ口の部品が漂着したこと及び、当該部品が前日飛行したオスプレイの部品であるとの連絡を受けました。

普天間飛行場所属機の相次ぐトラブルについては、今年だけですでに4回目であり、その都度抗議し、再発防止等を強く求めてきたところでもあります。

しかも、昨年12月に発生した普天間第二小学校への米軍ヘリ墜落という重大事故から2か月も経過しないうちに、部品落下という同様の事故が発生したということは極めて遺憾であり、また部品が欠落した状態のオスプレイが、本市を含む住宅地上空を飛行したことは看過できず、言語道断であります。

加えて、事故に際しては本来、速やかに米側から日本側に連絡が行われるべきであるにもかかわらず、今回、米側からの情報提供ではなく民間人が落下部品を発見したことで事実が判明したということは由々しきことであり、米軍の情報公開の姿勢を含む危機管理体制に強い疑念を持たざるを得ません。

市街地に囲まれた普天間飛行場では、いかなるトラブルであっても人命にかかわる大惨事につながりかねず、実効性のあるこれまで以上の取り組みが必要であります。

ついでには事故に強く抗議するとともに、事故原因はもとよりトラブルが相次ぐ構造的な原因の究明及び再発防止の公表と、速やかな情報提供の徹底とともに、それらの措置が講じられるまでの間の同型機の飛行禁止を要請いたします。

また、問題の抜本的解決のためにも普天間飛行場の一日も早い返還と、5年以内運用停止をはじめとする、返還までの間の普天間飛行場の危険性除去及び基地負担軽減を着実に実現するよう強く要請いたします。